

## 平成24年度第2回 CCC 電気通信工学グループ運営委員会議事概要

- I. 日時： 平成24年8月4日（土） 13時30分から15時30分まで  
II. 場所： 公益社団法人私立大学情報教育協会 事務局 会議室  
III. 出席者： 玉野委員、小林委員  
(事務局) 井端事務局長、森下主幹、野本職員

### IV. 議事概要

#### 1. 検討内容

- (1) 大学教育への提言報告書「未知の時代を切り拓く教育とICT活用」の2章 第3節に「分野別教員に期待される専門性と改善モデルの教育力、FD活動と課題」という節を設け、教員の教育力をどのように考えているか、高いレベルの教育力を実現するためのFDをどのように構築するかを記述することになっている。前回、この中の「電気通信工学教員の教育力」を作成するに当たって、「【1】電気通信工学教員に期待される専門性」について検討を加えた。今回は、これを土台にして「【2】教育改善モデル実現に求められる教育力」について検討を行った。
- (2) 電気通信工学教育における教育改善モデル（その1）の2.2授業の仕組み及び2.3授業にICTを活用したシナリオに記載した内容を踏まえて、教育力についての議論を行い、カリキュラムポリシーに沿って教員間で教育内容の摺合せができる能力がこれから一層必要となることが認識された。この認識に基づき、以下の①の案が作成された。基礎知識が応用分野でどのように活用されているかを理解させる能力も重要と考えられ、②の案が作成された。
- ① 授業のカリキュラム上の位置づけを教員間で共有し、シラバス間の調整を行い、カリキュラムポリシーに沿った授業を実施できること。
  - ② 電気通信工学の基礎知識が応用分野でどのように活用されているか関連付けて理解させ、主体的に学ぶ姿勢を持たせられること。
- (3) 電気通信工学教育における教育改善モデル（その1）の2.3授業にICTを活用したシナリオに記載されている内容についての議論を行った結果、プロジェクト学習をマネジメントする能力が求められると考えられることから、以下の③の案が作成された。また、学修ポートフォリオによる基礎力の洗い出しが求められるとの意見があり、以下の④案となった。
- ③ 社会のニーズに沿った課題を設定し、プロジェクト学習のマネジメントを理解し、基礎知識の振り返りを行わせられること。
  - ④ 学修ポートフォリオにより基礎力の洗い出しを行い、学生一人ひとりに適した指導ができること。
- (4) 電気通信工学教育における教育改善モデル（その2）の2.3授業にICTを活用したシナリオに記載されている内容を踏まえた議論を行い、学内外の教員及び社会の専門家との意見交流ができること、教育プログラム及び評価の改善ができることが求められるとの意見が出た。この結果、以下の⑤案が作成された。ICTを活用する観点から、以下の⑥案がまとめられた。
- ⑤ ICTを活用して学内外の教員及び社会の専門家との意見交流を行う中で、教育プログラム及び評価の改善ができること。
  - ⑥ ICTなどを活用して学生とのコミュニケーション、適切な教材作成、eラーニングができること。
- (5) 【3】教育力を実現するためのFD活動と大学としての課題について検討を行った。  
FD活動については、教員間の連携・意見交換が重要との観点から、①②が提案された。プロジェクト学習や学修ポートフォリオなどの教員の実践力を高めるために定期的なワーク

ショップの活用が有効との意見があり、③が提案された。教育プログラム及び到達度の水準を見直すためのオープンなFD研究会が有用と判断され、④案がまとめられた。

- ① 教員間の連携のもとに授業内容とカリキュラムポリシーとの整合性の確認および検討を継続的に行う必要がある。
- ② 基礎の担当教員と応用に関する教員間で問題点の洗い出しを徹底し、協働で学修支援を考察する場を定期的に設ける必要がある。
- ③ 定期的にワークショップを行うことによって、プロジェクト学習や学修ポートフォリオなどの実践力を高める場を設ける必要がある。
- ④ 教育プログラム及び到達度の水準を見直すため、ネットを介して学内外の教員及び社会の専門家によるオープンな研究会を設ける必要がある。

(6) 大学としての課題について議論を行った。大学として教員の教育活動を把握すること、教員が行う教育改善活動を支援する姿勢も必要と考えられる。インセンティブを高めることの重要性についても指摘があり、議論を経て以下の案が作成された。

- ① 大学として教員の教育活動を把握し、教育改善のインセンティブを高めるための支援に取り組む必要がある。
- ② 学内外の教員及び社会の専門家から協力を得るために、連携の呼びかけ、制度の整備および財政的な支援を行う必要がある。
- ③ ICTを活用した教育手法を支援する組織と環境を大学として整備する必要がある。

#### V. 次回の予定

- ・ 電気通信工学教育における学士力の考察を盛り込む予定である。ここで設定された学士力を設定した背景の解説分(A4 約 2/3 ページ分)と4つの到達目標を解説した文章(5~6行)を作成する。
- ・ 次回委員会：平成23年9月1日(土) 13時30分から15時まで。